

平成 31 年 2 月 21 日

狛江市議会議長
小 川 克 美 様

建設環境常任委員会
委員長 佐々木 貴 史

建設環境常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

記

1 調査事件名 ごみの減量について

2 調査の目的

狛江市では、これまでもごみの減量に向けた取り組みを行ってきており、またごみ袋を有料化した平成 17 年度と平成 29 年度を比較しても、狛江市民一人当たりのごみの減量については、排出量では約 25%、処理経費については約 41%も減少している。ではなぜごみの減量を引き続き行う必要があるのか。その背景として直接的には「ごみ処理に伴う環境負荷の低減」や「最終処分場への負担軽減」などが考えられる。また、狛江市としては市外に処理場があるという脆弱性と中間処理施設である多摩川衛生組合施設の老朽化などの課題もある。

そして最も重要な問題は、現在世界中で環境に対する取り組みの見直しが指摘され、私たちが便利な生活を営む間に、地球環境に多くの負担をかけてきたことである。一度壊してしまった環境をもとに戻すには、壊すのにかかった時間の何倍もの時間がかかり、最悪の場合は二度と取り戻すことができなくなる。

そのため、狛江市民がごみとして排出し処理をする量を少しずつでも減量していけるよう、調査することとした。

3 調査の結果

狛江市の実情を確認するために、まず可燃ごみ組成分析と不燃ごみ組成分析調査の実施日に本委員会委員が参加し調査した。可燃ごみでは不適物（可燃ごみでないもの）が35%にも上り、生ごみの割合が多いことと買い物時のレジ袋の多さに驚いた。不燃ごみでは、可燃ごみ同様に不適物が多いことと不燃ごみの中に資源ごみが多く含まれており、可燃ごみ・不燃ごみともに、ごみ分別への理解がまだまだ周知されていない現実を目の当たりにした。

また、多摩地域内におけるごみ減量の先進市である小金井市と国分寺市の取り組みを視察し、委員会として時間をかけて議論した。さまざま意見が出されたが、これらの調査結果を踏まえ、本委員会として次の5つの項目について提言する。

4 提言

(1) ごみ分別の周知徹底について

組成分析の結果から明らかだったように、ごみの出し方、分別が適切になされれば排出量はもっと減量でき、それが環境負荷の軽減や処理経費の削減につながると思う。狛江市では小・中学校でもごみ減量ポスターや標語コンクールが実施され、児童・生徒はごみ減量に関心を持っているが、成長するに従って慌ただしい実生活に追われ、関心は薄れていくことが考えられる。

この度「狛江ごみ分別アプリ」も供用開始されたが、この宣伝・周知をさらに広めていくこと、また複数の素材でできているものについてもイラストでの具体例を示すなど、わかりやすくすることが重要であるため検討いただきたい。

(2) 意識向上（改革）について

調査の目的でも述べたが、そもそもなぜごみを減量しなければならないのかというところを広く市民に示し、理解を得て行動できるようにしなければならないと考える。環境負荷の軽減や狛江市外で処理を行っている現状と最終処分場の許容量の問題など、全体像を示さなければ、なぜごみ減量なのかということが理解されない。

これまでもごみの減量についての周知はなされているが、より意識向上、意識改革に向けた取り組みをすることが重要であるため検討いただきたい。

(3) 表記の検討について

先進市において可燃・不燃ごみの表記は、狛江市の「燃えるごみ」は「燃やせるごみ」、狛江市の「燃えないごみ」は「燃やせないごみ」となっている。この表記の違いが、ごみ減量にどのように影響・効果を与えるか、意識の改革に

つながるのかなどを研究していくこと。

また、課名の表記については多摩 26 市では「ごみ減量推進課」「ごみ対策課」が多く、他には「リサイクル課」、「資源循環課」などがあり、「清掃課」という課名は狛江市だけである。市民へのイメージアップ、意識向上等につながるものであれば、ここについても効果等さまざまな角度から研究することは重要であるため検討いただきたい。

(4) ベランダ de キューロの推進について

ベランダ de キューロとは、プランターに黒土を入れ、透明プラスチックのふた（雨水よけ）を設けて陽の当たる場所に設置するものである。黒土に含まれるバクテリアの力で生ごみを分解する生ごみ処理器で、電気や特殊な菌などを使用せずに、手軽に家庭から出る生ごみの減量に取り組むことができる。夏季は 3～4 日、冬季は 2 週間ほどでバクテリアが生ごみを完全に分解、処理できる。使用方法は、①土に穴を掘る、②生ごみを投入、③混ぜて土をかぶせる、この 3 工程のみである。

市民モニターの実績によると、1 回の投入量を 100 グラムとして 50 日間で 33 回投入、単純計算で年間約 24 キログラムのごみの減量につながる。このキューロについては、先の「こまえ市議会の市民の意見を聴く会」においても参加者の関心が非常に高く、その効果への驚きと手軽に取り組めるものとして認識された。生ごみの処理・減量についてはキューロの活用が効果的であり、キューロの推進は重要であるため検討いただきたい。

(5) マイバッグの推進について

組成分析調査での、ごみとして出されたレジ袋の多さに驚きを覚えた。レジ袋の使用抑制は環境負荷低減につながり、スーパーなどの民間企業もレジ袋を有料化して、その利用を抑制しようとする努力も見られるところである。

先の「こまえ市議会の報告と市民の意見を聴く会」では本委員会としてのテーマを「ゴミの減量対策「みんなで無くそうレジ袋、みんなで持とうマイバッグ」ゴミ減量は環境問題解決への第一歩！分別は取り組みの第一歩！」とした。これは誰もが取り組みやすいことから意識改革につながればとの思いを込めたものである。買い物時のマイバッグについては、デザインなどを工夫することで、男性含め誰でも持参しやすいマイバッグの検討は重要であり、「みんなで無くそうレジ袋、みんなで持とうマイバッグ」の PR についても検討いただきたい。

5 調査の経過

○ 委員会開催日（合計 14 回開催）

平成 29 年 6 月 15 日	所管事務調査事項を決定
平成 29 年 7 月 28 日	調査項目について協議
平成 29 年 9 月 19 日	調査項目を決定，今後の調査に必要な資料の要求
平成 29 年 11 月 1 日	資料に基づき市側より説明，質疑応答，視察先の検討
平成 29 年 12 月 14 日	資料に基づき市側より説明，質疑応答，委員派遣の決定
平成 30 年 2 月 2 日	行政視察の感想及び意見交換，新たな資料の要求
平成 30 年 3 月 9 日	資料に基づき市側より説明，質疑応答，意見交換
平成 30 年 4 月 27 日	「可燃ごみの組成分析結果」について市側より報告及び 質疑応答，意見交換
平成 30 年 6 月 21 日	意見交換
平成 30 年 7 月 26 日	意見交換
平成 30 年 9 月 14 日	意見交換
平成 30 年 11 月 5 日	「不燃ごみの組成分析結果」について市側より報告及び質 疑応答，意見交換
平成 30 年 12 月 14 日	調査報告書作成に向けての協議
平成 31 年 1 月 30 日	調査報告書決定

○ 委員派遣

平成 30 年 1 月 19 日	小金井市役所・国分寺市役所に調査のため委員 7 名を派遣
------------------	------------------------------

○ 参考

平成 30 年 10 月 20 日	「こまえ市議会の報告と市民の意見を聴く会」を開催
-------------------	--------------------------